

## 令和8年度 入学式式辞

新入生の皆さん、金光藤蔭高等学校へようこそ！義務教育を終え、今日からいよいよ高校生活が始まります。成人年齢が18歳になり、3年後には大人になります。高校での3年間は、将来の生き方を決める基礎となる重要な時間です。“自覚”と“目標”を持って、着実に一歩ずつ歩みを進めてほしいと思います。

本校は、大正15年に創立以来、今年度開学100周年を迎えます。皆さんはまさにその歴史の節目に入学されたことになります。大正・昭和・平成そして令和へと永きにわたり、金光教の教えを根幹に、「天地自然、周囲の人々に感謝し、自分自身、他人を大切に、平和を願い、社会に貢献する人を育てる」という建学の精神のもと、“心の教育”を第一に実践してまいりました。その甲斐あって、最近では近隣周辺の方々から、「金光藤蔭の生徒さんは愛想よく、礼儀正しく挨拶してくれる。」と多くの声をいただくようになりました。他にも、学校周辺の清掃活動やボランティア活動、小学生のクラブ体験、施設などへの慰問演奏など地域との繋がりの中で、生徒たちは、社会性を学んでいます。皆さんも、日々の学校生活の中で、強く、優しく、美しい心を育てほしいと願っています。

さて、現代社会の大きな問題の1つにSNSの功罪があります。SNSは簡単に様々な情報にアクセスでき、非常に利便性が高いツールです。多くの人々が、LINE、Instagram、X、Threads、TikTokなどを利用閲覧し、ネットサーフィンに時間を費やす風潮にあります。それらは使い次第で有益な情報源にもなり得る反面、人を騙したり、傷つけたり、人間関係を壊す道具にもなり得ます。若年層のネット依存や悪影響を抑止するため、諸外国では利用を規制する動きが加速しています。現在規制のない我が国では、1人ひとりがネットリテラシー(=インターネット上の情報を正しく理解し、適切に判断して安全に活用する能力)を高め、適切なコミュニケーションをとることで、トラブルを回避し、自分や周囲の人を守る事が重要です。実態の見えない情報に騙されず、顔を見て、心を見て、人と正しく接することを心がけてください。

私は、59年の人生の大半をスポーツ中心に過ごしてきました。小学校では柔道、中学・高校・大学ではバスケットボールを通じて、厳しい日常の中で、その技術や知識以外にも、忍耐力や協調性、人との接し方を学びました。選手時代からこれまでの期間を併せると48年間バスケットボールに携わり、たくさんの人に出会い、影響を受け、お世話になったことが、私のかけがえのない財産となっています。そのお陰で今日の自分があると思っています。すでに他界しましたが、厳しかった高校の恩師には心から感謝しています。

話は変わりますが、大谷翔平選手の高校時代の有名な話で、「マンダラチャート」というのを聞いたことがあるでしょうか？このチャート(指標)は、1979年にグローバル研究所の松村寧雄氏によって考案されたもので、目標やアイデアを整理し、達成までのプロセスを明確にし、将来なりたい自分を $9 \times 9 = 81$ マスの表を使い、「見える化」することです。大谷選手の高校1年生時に作成した目標の中心にあるのは、「ドラフト1位8球団」でしたが、それを達成するための要素として、「あいさつ」・「ゴミ拾い」・「部屋そうじ」・「思いやり」・「感謝」など、人間としての必要な基本的要素がたくさん記されています。世界のスーパースターとなった今でも、驕ることなくフィールドやベンチでゴミを拾う行為や、謙虚に振舞う姿勢こそ、万人から愛される彼の人間性の象徴と言えます。先ほど、SNSの功罪について触れましたが、SNS利用のいい側面として、彼のマンダラチャートを検索して、参考にしてみてください。

新入生の皆さん、今日から高校生活を始めるにあたり、毎日の生活の中で、心に留め、常に実践してほしいことを3つお伝えします。

- 1、礼儀・挨拶・言葉遣いを身につけること、高い規範意識を持ち、法律は勿論、学校や社会のルール、マナーを遵守すること。
- 2、生活習慣(食事・睡眠)の確立、時間・体調管理を心がけること。
- 3、人の話を聴く力、自分で考え行動する力を養うこと。

以上の3点を身につけることが、学校生活の基本であり、その先、社会を生き抜いていく力の基礎となります。その上で、これから本校の多彩なコースで、たくさんの成功や失敗を経験し、人生の土台作りをしてください。

金光藤蔭の教職員は優しく、厳しく、皆さんを全力でサポートすることをお約束します。皆さんの高校生活が、先の未来へと続く実りある時間となることを心から祈っています。

最後に、教育活動を展開するにあたり、保護者の皆さまと本校教職員との信頼関係は欠かせません。何卒、ご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げ、入学に際してのご挨拶といたします。

令和8年4月4日 金光藤蔭高等学校 校長 武田充広